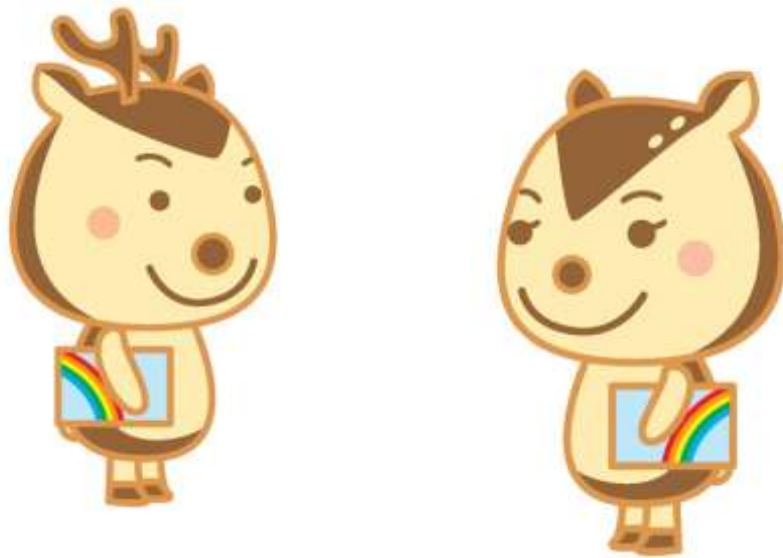


# S部門

(肢体不自由教育部門)

社会性を育む教材

教員作成教材ガイド



平成28年度

東京都立鹿本学園

## 目次

- 「誘導棒」
- 「だじゃれかるた」
- 「冬の遊び」
- 「スイスイジャンプ」

# スイスイジャブジャブ ～パネルシアターで児童と共感しながら～

## 対象児童・生徒

・提示された対象を注目させていくには、言葉かけや歌いかけ、または対象物をゆっくり動かしていくなどの特別の手立てが必要な児童・生徒。

・身体の実態としては、まひのため、上肢下肢を意図的に動かしていくことが難しい児童生徒（その子どもの実態に応じて、働きかけていくので、あまり身体の実態を限定しない。）

S 小2 A学習グループ(Bグループでも可)

自立活動を主とする 教育課程 知的代替でも可



## ねらい

(自活主) 絵の変化に注目し繰り返される歌やフレーズに心地よさを感じ、身体をリラックスさせ、気持ちを教員に発声や表情で伝える。  
(知的代替) 登場人物動物の気持ちに共感し、登場人物動物のつもりになって演じようとする。ストーリーの変化を追うことができる。

・「カッパ」「男の子」「カエル」は、糸でつなぎ、つまんで軽くゆすると手足や顔が動くようになっている。  
・水がなくて、カラカラで苦しい時と、水の中に入って「気持ちいい」「うれしい」時の表情に差をつけ、表情の変化がはっきり感じ取れるようにする。自活主課程の乳児期前半期（絵を見るだけでは、意味を感じ取れない時期）の児童たちには、教員がメリハリのある言葉かけや歌いかけをしていく。→リーダー以外の大人が児童を抱っこして、歌いながら軽く揺さぶってもよい。

## 教材の使い方 (指導方法)

国語・算数の授業のみならず、特別活動、生活単元など、また普段の様々な学級指導の場面で導入に指導できる。

<流れ> (自由に流れは変えていい。子どもの実態に応じて臨機応変に。)

1、(魚のパネル)「暑いな～」「もうひあがっちゃうよ～」と表情たっぷりに言いながらパネルを疲れたように動かす。

2、「さあ、川(プール)に来たよ～」と青い毛糸を画面いっぱいに広げる。そしてぱっと魚を裏返し、「わー、嬉しい！」満面の笑みを浮かべてそして♪「スイスイジャブジャブ」を歌う。

魚を動かして「♪スイスイスイスイ、スイスイすいすい、とつてもきもちいい、とつてもきもちいい。」

3、カエル、カッパ、男の子をソロで登場させ、魚のような流れで行う。

歌詞は以下のように

カエル：「スイスイケロケロ、スイスイケロケロ、、、、、、」

カッパ：「ジャブジャブジャバジャバ、ジャブジャブジャバジャバ、、、、、、」

男の子：「スイスイジャブジャブ、スイスイジャブジャブ、、、、、、」

4、最後は男の子一人のところに、全員登場させ、「あっ、魚だ！カエルもカッパも来た。みんないるよ、水の中って楽しいね。」とパネルを操作して泳がせて、最後に「スイスイジャブジャブ」で歌う。

# 冬の遊び

## 対象児童・生徒

- ・疑似活動を体験する中でイメージを育てたい生徒。
- ・友だちを意識する気持ちが育ちつつある生徒。

S

A学習グループ

自立活動を主とする 教育課程



## ねらい

- ・こたつや冬の遊びを体験しよう。こたつで友だちと向い合せに座ったり冬の遊びを経験する中で冬の季節を知る。
- ・先生や友だちと一緒に過ごす楽しさ、もっとやりたい、寒いなど生徒が感じる気持ちをそれぞれの方法で表出し伝えられる。

- ・海苔巻きは大きさ重さ持っている感覚に気が付かせ、大きさ、色で目を引くようにした。
- ・こたつは、座位の難しい生徒がクッションチェアでも入れるように高さを付け、入れる人数も増やすため長くした。中にヒーターを入れて温かさを感じられるようにした。
- ・どちらも持ち運びできるよう材料を工夫した。

## 教材の使い方 (指導方法)

- ・全員でこたつに入って温かさや友だちと一緒にの温かさを感じる。
- ・こたつに入って坊主めくりや恵方巻きを食べて交流し、その後に豆まき、そり遊び、おしくらまんじゅうなど季節の活動、絵本読みをして冬の季節を感じていくようにする。

# だじゃれかるた

## 対象児童・生徒

友達を意識する、人との関わりを広げる、物を握り続ける等を課題とする、自主主課程の生徒。  
友達と協力して取り組む、協応動作の操作性を高める等を課題とする、知的代替課程の生徒。

S 高3 A・B学習グループ

教育課程



## ねらい

・学年レクリエーション活動を盛り上げ、友達や教員との関わりを広げる。

・学年活動を活性化させる為に、普段の生活と関連付けて取り組める内容を考えました。  
・普段から友達や教員の様子に目を向けたり、だじゃれを思いついて笑いが起きたり、学年の雰囲気明るくなりました。  
・札の大きさや竿の長さに変化を付けられます。また、ひらがなの認知課題も取り入れることができます。

## 教材の使い方 (指導方法)



・取り札にクリップを付けます。竿の先には磁石が付いています。  
・学年レクリエーション活動で使います。広い机にカルタを並べ、だじゃれカルタを読み上げます。  
・カルタを取ります。基本は友達とペアになり、協力してカルタをつり上げます。それぞれの実態に応じて、指し棒で指して取る、大きい札を使うなどのアレンジができます。  
・竿がブラブラして思うように取れなかったり、自分が考えただじゃれが読み上げられたりして、とても盛り上がります。

# 誘導棒 ～足元に視線を向けよう～

## 対象児童・生徒

言葉での指示理解がある程度でき、発声や簡単なサインなどを用いてコミュニケーションがとれる生徒達である。着席しての活動は比較的苦手で、集中力も途切れがちになるため、基本マンツーマンでの活動が必要である。活動に集中し、始まりと終わりを意識して取り組むことを目標としている。

S 高1 学習グループ

自立活動を主とする 教育課程



ねらい

足元に視線を向ける  
→気が付く→またぐ

## 作り方と工夫

- ①固くても危なくない材質の棒を用意します。
- ②注意を惹きやすい色で加工します（今回は蛍光ピンクです）。
- ③必要に応じて鈴等を付属します。

## 教材の使い方 (指導方法)

- ①活動開始時と見本を示す際に生徒に提示する。
- ②足元のミニハードルに気が付かない生徒がいる場合、棒を使って視線を誘導する。
- ③足元に視線がいけない生徒は上から下に棒を何度か動かし視線を誘導し、個別対応を行う。
- ④ミニハードルに近づきすぎて、またぎこせない生徒の場合は、棒をミニハードルの少し前に固定し持ち、近づきすぎでつま先が当たるのを抑止および調整する。